南丹市総合教育会議議事録

＜令和５年度第１回＞

令和５年７月19日

令和５年度第１回南丹市総合教育会議

１　日　　時　令和５年７月１９日（水）
　　開会：午後３時００分　閉会：午後４時５０分

２　場　　所　南丹市役所３号庁舎２階　第４会議室

３　議　　題
（１）南丹市立幼稚園の今後の展開について
（２）教育課題について

４　出席委員
西村市長
國府教育長、髙屋教育長職務代理者、城戸委員、渕上委員、前田委員

５　会議に出席した職員
＜教育委員会事務局＞
柴田教育次長、芦刈教育参事、山内教育総務課長、山田学校教育課長、
小久保学校教育課参事、川勝社会教育課長
＜総合教育会議事務局＞
國府市長公室長、井尻企画財政課長、片山企画財政課課長補佐、
佐々江企画財政課主事
＜説明者＞
矢田福祉保健部長、谷口子育て支援課長、桐子育て支援課参事、
西岡園部幼稚園園長

６　傍聴人　　３名

７　会議の経過

＜１＞開会（進行：総合教育会議事務局）
ただ今から、令和５年度第１回南丹市総合教育会議を開催いたします。開会にあたりまして、西村市長からご挨拶をいただきます。

◇市長あいさつ
開催にあたり、ごあいさつ申し上げます。本日は令和５年度第１回南丹市総合教育会

議を開催させていただいたところ、教育委員の皆様、また、関係する皆様方には出席を賜りありがとうございます。この総合教育会議ですが、大津市のいじめの事件を機に一般行政と教育行政が、様々な課題が発生した時や予見される時には十分に連携し、的確な対応を行えるよう普段からの情報共有を努めるべきであるとの方針に基づき設置されています。通常の総合教育会議では、市町の教育課題全般についてテーマを設定し協議を行う。また、何か事態が発生した時には迅速に一般行政、教育行政が連携を取って対応する役割があると聞いています。

前回、総合教育会議を開催した時に、皆様方から様々なご意見を頂戴しました。開催のタイミングをもう少し早期にするべきはないかとのことでした。例年は冬に実施し、総合的な意見を翌年度の予算や施策に反映させていましたが、それよりも、日々起こる課題に、年に１回とこだわらずに回数を重ねることも含め開催してはどうかと。また、テーマについては、事前に調整をして幅広い課題に取り組んでいく必要がある、とのご意見をいただきました。

今回は、幼児教育の在り方も含め、子育て全般に及ぶと思いますが、南丹市の幼稚園の今後の展開について、1 つのテーマにしながらも南丹市の今後の子育てについてどのように進めていくか、ポイントを絞りながら幅広いご意見を頂戴したいです。意見、情報交換をしたいと思っていますのでよろしくお願いします。大変お世話になります。

［総合教育会議事務局］

ありがとうございました。本日ご出席いただいています委員の皆様、また、事務局として出席していただいている職員の名簿については配布している次第の裏面に掲載しています。

それでは、本日の議題に入ります。当会議の議長については、西村市長にお願いします。西村市長よろしくお願いします。

＜２＞議事

（１）南丹市立幼稚園の今後の展開について

〇説明員から南丹市の幼稚園及び保育所の状況について説明

［西村市長］

今後の推進の方向性を検討する材料として、一定の議論のうえにまとめていただいたものです。市役所の中でも決定ではないです。民間保育所の誘致については、地元に説明に入っていることで、その方向でのスタートが切られています。いつ頃、どのような法人にお世話になるのか未知数な部分が多いです。そのような内容で説明させていただきました。説明に対しての質問等あれば、率直にお尋ねください。

［髙屋教育委員］

一番肝心な数字が抜けているので教えてください。園部町の最近の出生数を教えてください。それが分からないことには、この計画も分かりません。それから、のぞみ園の定員数を 150 名から 180 名に増やすという話が出ていますが、今現在ののぞみ園の入園者数を年度推移で教えてください。そして 3 つ目、公募の民間幼稚園、保育所、もちろん保育士を募集すると思いますが、公立ものぞみ園も保育士が少ないと言っている状況で新たなところが出てくると、保育士の取り合いになるのではないかと危惧しています。今の園部幼稚園、保育所の保育士の充足率を教えてほしい。できればその数字を教えてください。よろしくお願いします。

［西村市長］

出生数は昨年度実績がデータとしてあります。今現在進行中のところは分からないですけども。もう 1 つ、保育士の充足率。質問は受付させていただき、また調べさせていただきます。

他にも皆様、分からない点など聞いてください。

［前田教育委員］

こども園化のメリット、デメリットですが、デメリットはこのくらいしかないのですか。かなり少ないと思いました。それと、こども園化することで、保護者の送迎が義務になるのですか。見ていると良いことばかりな気がしますが。

［説明員］

のぞみ園の保育士不足の部分は私も把握しきれていないところがありますが、公立の保育所について、日中 9 時から 14 時ぐらいまでの時間は十分に保育士が充足しています。数値としては出せていませんが、7 時半から 9 時までの間、14 時から 19 時までの間は保育士が不足しているので、シルバー人材センターに依頼をしたり、保育補助の方に時間を少し変更していただいて人としての数の充足はできています。ただ、保育補助やシルバーの方を人数カウントしていいのか、通常保育の定員、子どもの数に対して補えているのかというと、その時間は不足していることになります。

［髙屋教育委員］

シルバーさん等、保育士の資格を持っていない人を人数に数えるのは無理があるのではないかと思いますので、数字で言えば、人数で言えば、と 2 つ出していただければと思います。保育士だけの人数、保育士とシルバーの方含めた人数のような形で。

［説明員］
　のぞみ園の今の利用人数だけお伝えします。令和5年7月1日現在で、のぞみ園の保育所を利用されているのは合計で121名。年齢別では、5歳児19名、4歳児23名、3歳児24名、2歳児25名、1歳児21名、0歳児9名です。教育の利用の部分体での利用は合計7名。3歳児4名、4歳児3名、5歳児は0名です。
　昨年度は、最終3月1日現在で、保育利用は合計120名。5歳児12名、4歳児18名、3歳児24名、2歳児24名、1歳児24名、0歳児18名。教育の部分体は全体で3名。3歳児2名、4歳児0名、5歳児1名でした。

［西村市長］
　おそらく、南丹のぞみ園の定員が質問にあがったのは、定員増になるが利用人数が定員に達していて、増やすという方向で検討しているのか状況を確認いただいたのだと思います。経年変化を聞きたいという訳では無いですね。

［髙屋教育委員］
はい、ないです。

［西村市長］
　髙屋委員からは、これから子どもの数がどのようになっていくのか、減少していくのであればこのプランはどうなのか、というのを質問をされました。

［髙屋教育委員］
　はい、そうです。今までの出生数も教えていただけると嬉しいです。

［西村市長］
　保育士については、かねがね厳しい状況で市でも施策を考え、家賃補助や奨学金の返済支援をしています。

［説明員］
　奨学金の返済支援と、家賃補助の制度は新たにできたものです。

［西村市長］
　それで保育士がすぐに増える訳ではない状況で、全国的な課題です。その中でこのプランが成り立つのかを危惧されているという中で心配し、ご質問いただきました。回答に時間が必要なものは、どれでしょうか。

［説明員］
子どもの人数は、南丹市のホームページに市民課が公開している資料があるので、今そちらを検索しています。

［西村市長］
特に、地域、旧町ごとに数字が出ると思います。それから、メリット、デメリットでご質問いただいた内容。良いことばかりは無いのではないか、と。

［説明員］
もちろん、メリットとして人材のスリム化ができる一方で、職員の連携の難しさや、保育所、幼稚園での保育や生活の流れの違い、また、給食施設が無いところにおいては、新たに配膳室等の設置が必要になる。そのようなことも含めると、デメリットはここに記載あるものだけではないです。

［前田教育委員］
保育を開始する時間が延びるわけではないですか。幼稚園と保育園だと。

［説明員］
延びます。

［前田教育委員］
そうすると、また人が不足しますよね。

［説明員］
そうですね。

［前田教育委員］
夏休み、冬休みはなくなる。幼稚園から見るとデメリットですよね。

［説明員］
幼稚園から見るとそうですが、幼稚園でも、働いている保護者にとってはメリットになると思います。今まで幼稚園は、夏休みなどの長期間の休みに受け入れる制度がないため、年度途中で保育所に移りますとおっしゃる方がいました。

［西村市長］
我々もですが、大昔に保育所に通ったり自分の子どもや皆様方のお子さんが通ってい

たころは、はっきり分かれていて待機児童という言葉もありませんでした。国の方針で、認定こども園化が始まり、また方針が変わりますが、保育士の配置基準もどんどん濃厚になってきます。国が方針を出すのはいいですが、保育士の手当を上げ、確保しやすいような国としての施策がなされているかというと、そこは放ってあります。今度も、こども家庭庁ができ、「異次元の」等様々な言葉を使って言っていますが、結局のところ地方自治体にしわ寄せが全て来ているのが実態です。

［説明員］

ホームページからの数字になりますが、市民課で住民記録の年齢別人口集計表を公開をしていて、令和5年7月1日現在。園部町、0歳が95名、1歳96名、2歳105名、3歳98名、4歳124名、5歳が116名となっています。

［髙屋教育委員］

ありがとうございます。

［西村市長］

意見交換、議論をしていただくうえで、基礎的な数字になると思います。
ご質問いただいて、すぐに答えが出ていませんが前に進めてもよろしいですか。

（賛同の声）

［西村市長］

これをもとに、意見交換をしていきたいのですが、こちらから特に行政的に方針化してきた内容は、待機児童を絶対に減らそうというもの。保育所の園舎が老朽化してきているので何とかしないといけませんが、財源がなかなかない。行政が施設を作ろうとしても、国の助成制度は行政にはありません。ところが、民間福祉法人などが保育所を設置すると、国からのかなり手厚い助成、補助金が出る。南丹市も待機児童が特に園部で多く出たときに、民間の保育法人を誘致し、とりあえず充足させなければ、ということでスタートさせました。4月1日では、辻褄が合いましたが、保育士の確保が年々厳しくなる中で、スペースがあっても受け入れができない。その課題がこれからも考えられます。のぞみ園でも人が足りていないとの声をよく耳にしています。公立も厳しい状況の中でこれからどのようにしていけばよいのかと頭の痛い問題です。

もう1つは、民間保育所を誘致するというのは、はっきり言うと、公から民へ移して行くというのが事実です。公立、園部では城南と園部2つの保育所体制を民間に移っていただいて徐々に縮小していく。一気にはいきませんが、そういう中で切り替えを行っています。なぜかというと、支援制度が民間には付き、公には少ない。それと、市も人

員削減をずっとしてきて非常に職員の定数管理が厳しい中で、職員としての保育士を民間に移していきたい。それによって、職員の全体の数は変わらないが、行政の執行体制を強化しつつ、民間の体制を一定確保していける流れを時間をかけてつくっていきたいという思いがあります。

それからもう1つ、南丹市全体の保育の受け入れの中で、園部で入れない方が日吉や八木など、どこでもいいので入れてほしいとおっしゃる方の受け入れをしているが、園部の中で充足をさせたい。子どもを園に送るにも長距離になるので、園部のエリア内で充足いただきたい。定員増もそのような観点から、園部の受け入れ体制を集中的に取り組む。職員の体制など課題はありますが、とりあえず器をしっかり作っていき、人の確保は何らかの方法で応援していくという方向です。

色々なご意見があると思いますので、聞かせていただければと思います。

［髙屋教育委員］

市長がおっしゃることも分かりますが、今すぐにできることは、既存施設の有効利用が一番簡単で一番しやすいと思います。その理由は、園部幼稚園について説明がありませんでしたが、元々この施設は園児数200人程を受け入れられる施設です。ところが、今は50名程しかいませんので、残り150名を受け入れることができる施設です。ただ給食施設がないのでこども園化するには今の段階では難しいです。園部幼稚園をこのままの状態で置いておいて、民間の新しい保育所を作る形を取ると、もしこの新しい保育所が潰れたら維持管理するのは南丹市になり、お金がかかります。今ある施設を有効活用する点では、200名を受け入れられるのであれば、それを考えることが一番賢いのではないかと思います。

［西村市長］

ずっと公立で運営していくという課題はありますね。

［髙屋教育委員］

はい。公立が良いのか私立が良いのかはここで議論するのではなく、色々な人の意見を聞いて方向性を決めるべきだと思います。他の子育て世代や今までの園部幼稚園、保育所の現役、OBの先生方皆さんの意見を聞いてどの方向が良いのか、市をあげて議論するべき課題だと思います。

［西村市長］

はい。そういう意見があると。

では、園部保育所、城南保育所がどうなっていくのか。8ページ資料7について、園部幼稚園については、こども園化をしていく。議論の中でこども園化をしながら募集の

縮小をしていくというのは幼稚園部分ですか。

［説明員］
はい、そうです。

［西村市長］
それから、すこやか学園もこども園化をして存続させていく。園部保育所については、園部幼稚園と統合していく。これは、園部幼稚園に移し替えていくとのことなので、当然、全体として増えます。それから、城南保育所については規模を縮小しながら、どこまで縮小をするかの結論は今まだ出ていませんが、将来的には廃止も含めて検討していく必要があると思っています。それぞれ園部保育所も城南保育所も長い歴史もあり、地元の運動団体は同和保育の実践も取り扱い、進めてきた思い入れも強い。しかしながら、これから将来に向かってどうあるべきか、と考える時にこのまま絶対に残すべきということにこだわらず、その時々の状況に応じて考えていけばよいという柔軟な考え方も、全てではありませんが、いただいているのも事実です。

南丹市の保育・幼稚園行政をどのようにしていくのか、今非常に大きな曲がり角にきていますし、一方では国として子育ての新しい省庁を再編してまで力を入れていきたいということで、どこまで市町村にメリットのある施策になるのか、まだはっきりしていない状況です。その状態も見ながら進めていく必要があるということです。

非常に厳しい判断をしていかないといけないと思いますが、舵取りを失敗すると財政的にももたないことになってしまう。慎重にですが、思いきったことをしないとこのままでは先行きが見えないように思います。また、日吉はどうなるのかというと、児童数が減ってきていて厳しいです。美山もですが。その推移を見て、エリアが広域なところでは、なかなかどれか２つを統合してというのは難しい。美山は１園体制ですので。美山以外のところと統合するのは考えにくく、そのまま存続していくにはどうしたらいいのか。日吉も２園体制です。これをどのようにするのか、殿田と胡麻で距離がありますし。八木については、八木中央と八木東を距離的には近いので将来的には１つにしなければならないのかなと考えています。子どもの数がどのようになっていくのか、例えば内林や小山西、平成台ができた時に子どもがぐっと増えてきて、卒業して出産子育て世代が高齢化していくと、だんだんと下がってきます。八木はもしかすると、土地開発をしているので長期的には少しずつ増えると思います。のぞみ坂で、また家が建ち始めていますがドンと増えたり横ばいに増えることはなく、じわじわと減ってきています。そんな状況の中で、園部もどうするのか、八木中央も東も園舎が古く、改修はしたが長くはもたないそうで、その時に建て替えはどうするのか。あらゆる問題が一気に押し寄せてきます。それが今の状態ではないかと思います。美山の知井エリアでも分園化をしましたが、一定の条件を満たせずなかなか開けない。どうしても働いている方には、延長

保育の部分での預かりをなんとか、ということで地元でも知恵を絞り、託児事業として就労されているお母さんの要望を満たしました。これから、児童の推移がどうなるかですが、入ってこられる様子がないです。非常に苦しい状況です。

［髙屋教育委員］

園部地域の出生数をみると、明らかに徐々に減っていると思います。減っている状況で新しい保育所が本当に必要なのかと率直に思います。例えば、認定こども園の話も出ていて園部幼稚園を認定こども園化しても、新しい保育所ができて子どもの数が減っていくと、潰れるのではないかと思います。市長が言っている、民間の保育所を作るのであれば、私は作る必要はないのではないかと思います。地元説明をしていると言いますが、民間の保育所の話が本当に必要なのか、そこから始めないと難しいのではないか、と思います。

［西村市長］

一つの側面だけから見ると、子どもがそれだけいるのか、大きくして充足するのか、経営的に問題がないのか。もう一つの側面で見ると、公立保育園から民間保育園、こども園に移行していく、それは時間をかけてしていくので。のぞみ園も当初は 70 人程でしたか。

［説明員］

そうですね。80 人ぐらいです。

［西村市長］

今の人数まで徐々に増やし、職員体制も徐々に整えながら増やしてきた経過があります。何年かの単位で官から民に移していきたい。近隣で言うと、例えば、綾部市は全てこども園化されていますね。

［説明員］

公立の保育所が 1 園のみ残っています。幼稚園もです。

［西村市長］

それ以外は全て民営化です。それをモデルにした訳ではありませんが、一定の公立の施設を残しながら民営化を進めていくという、その方針に今進んでいますので、新たな民間保育所の誘致についてはその方針に則って既にスタートしています。ですから、公立をぐっと絞り込んでいく。もしかすると、最終的には園部幼稚園 1 園に縮小していくことになっていくと想定して動いています。

［髙屋教育委員］

市長の言う方向でいくと、おそらく園部幼稚園が認定こども園化しても将来的に生き残るのは大変難しいのではないかと思います。園部には、その他にも聖家族幼稚園があります。聖家族幼稚園も、新しい保育所ができると今でも園児の数が減っているところがもっと減ってしまうと、撤退するのではないかと危惧します。園部の幼児教育で、聖家族幼稚園や園部幼稚園が果たしてきた実績というのはすごく大きなものがあるので、それを否定するようなことをされるのは、感心しないと思います。その辺りの市長の考えを教えていただきたいです。

［西村市長］

聖家族幼稚園については、南丹のぞみ園を誘致する際に真っ先に声かけをしました。できれば、地元の法人で取り組みができませんか、初歩的なことも相談しながら、と。本部の松山にも相談をかけていただきましたが、園長自身は意欲的でしたが本部がそのようなことは全く考えていないとのことで、今、聖家族幼稚園で考えておられるのは、まだ結論は出ていないようですが、認定こども園化を一部でするのでしたか。

［説明員］

そうですね。幼稚園型の認定こども園の移行を検討しようかな、とお考えのようです。

［西村市長］

聖家族幼稚園の場合は、0歳児の受け入れはしない、1歳までは親の元で、というはっきりとした方針です。ですので、1歳児からとのことですが、定数もその時に見直していく、受け入れられる人数は今よりも増えると思います。そういった意味では、園部の中で子どもの取り合いが起きると思います。そこで調整しないといけないのは、公立で調整していく。あるいは、課題を持った子ども達、障がいがあるなどの子ども達については、民間に任すのではなく最終的に公立でカバーしていく必要があるとのことで、公立存続論ももちろん持っています。そのうえで、官から民へ移していくというのが市の考え方なので、上手に舵取りをしないと髙屋委員のおっしゃるように、施設はできたが経営が厳しいという状況が出てきます。今も、南丹のぞみ園とは子育て支援課で頻繁にやり取りをしています。その辺りは、上手にやり切らないといけないと思っています。心配されていることは、よく理解していますが、今後の行政として保育なり、子育て、小学校までの部分を安定的につくり上げていく。園部の場合は、非常に難しいですが、できるだけ民に移していきたい。公については、最後の砦は残しておく。八木については、子どもの数によって民間の保育所誘致をしたいと思っていますが、民間ですので経営的に見通しがなければ誰も手を挙げない。その辺りの子どもの数はしっかり見ないといけないと思います。民間でのぞみ園は非常に大きな定員数を確保いただいていますが、

京都市内の状況を見ていると、90 人規模が多い。そうなると、八木でも 90 人規模は可能ではないかと思います。保育所を確保するのに、JR 沿線で他所から確保しないと、地域の中で掘り起こしても全ては集まりません。実際にのぞみ園も徒歩で行ける場所です。地元に声をかけているところも、徒歩で行ける場所です。

［前田教育委員］

市長のお考えだと、資料 7 の矢印より先の園部幼稚園の将来は、園部幼稚園もこども園化し、民間の子ども園になってしまうということですか。

［西村市長］

そうはならないと思います。私がいつまで関われるのか分かりませんが、10 年先などで消えるのか、というと、公立の施設としての受け皿は持っておく必要があると思います。

［國府教育長］

今、市長がおっしゃったように、特別支援的対応については、公立で。議論を聞いていて、持続可能であるなら存続していくうえで、そういう子達が教育の中でもどうなのかと思いますので、そういう意味で最終、先程のご意見もあったように残していくということについて、なるほどな、と思って意見を聞いていました。

［西村市長］

のぞみ園が経営している、世田谷区にあるところへ行きましたが、障がいのある子どもに 1 対 1 で対応をしていました。保育士 1 人に対して子ども 1 人。そうでないと、そのお子さんを預れない状況ですが、園の方針で受け持つ、ということでされています。本当に経営的に負担になっていますし、そういう部分は公でサポートしていくべきと思っています。身体的、精神的な障がいではない課題もあると思いますので、そのような受け皿は必要であると思っています。本当は、病児保育ではなく、看護師さん対応で。

［國府教育長］

特別支援学校の幼稚部ですね。幼稚園から預かるとなれば、この近辺ではあまり聞かないので。

［説明員］

幼稚部の特別支援の枠が、この丹波エリアにはないので。できるだけ、保護者も公立の園で受けてほしい、というところです。体制を整えて、何年か立ち上げ委員会も作ってきて、昨年度は実施できました。

［國府教育長］

万が一そのようなお子さんがあれば、南丹管内ではなく口丹波の方に通わなければならない。1 つの考え方としては、地理的な問題。面積が広い南丹市ですので、国は色々なことを言ってきますが、部活動の地域移行もそうですが、やはりその辺りのアクセスの問題をどのように考えるのか、どのように補助するのかも 1 つの視点に入れるべき。

この間、美山の保育所に行った時に、1 歳児、2 歳児が少なくなっていると所長から聞いた時に、義務教育で考えると 10 年、15 年後どのようになるのか。この就学前の問題がいずれ、義務教育にきて、そして次に高校。聞くと、園部町内も今は 1 学年 95 名ほどになっています。現在、園部の中学校では 125～6 名が 1 つの学年にいます。そうなると、30 名ほど少なくなる。この状況が続き附属へ抜ければ、園部中学校が 2 学級になる可能性がある。15 年後、20 年後を考えると、そういうことも想定をしながら、もう 1 つは施設に係る維持費で学校関係のお金をどのように維持していくのかを考えなければならない。そうなると、国の補助金。教育委員会としても、小・中でどれだけ増えるのか南丹市に持ってこれるのかを考えた時に、持続可能な形で考える視点もいるのかなと思い、就学前について口をはさみました。

［西村市長］

幼稚園や保育所の再編は大都市でもありますが、今まで自転車で預けに行っていたエリアが、自転車では無理だ、どうしたらいいのかという騒ぎに近い。まだ、その辺りの街中は課題が易しいです。田舎は、どうにもならない。

例えば、殿田の小中学校が増えない中でどのように維持していくか、今は、現状のままいく方針ですが今後どのようになるのか、と厳しいものがあります。

美山の小中学校を統合しないと、施設の維持が苦しくなってくる。どちらかに統合する必要がある。今、全国的に起きているのが子育ての問題の中で、特に少子化の中で地域での体制をどのように作っていくか。教員、保育士、幼稚園教諭の確保も、数がどんどん減っているので、難しい状況です。この辺りは、どうにか教師は確保できているようですが、丹後辺りに行くとなり手がなく数が足りないとのことで、丹後へ行く方は別枠の北部枠で確保するという厳しい状況です。

子どもが減っていくで中で、どのように乗り切りをしていけるのか、もう 1 つは待機児童を出さない。今、待機児童が増えているのは、保育所への子どもの預ける年齢がどんどん低年齢化している。子ども全体の数は減っているが、入園希望者がしばらく増えてきている状況があります。いずれ、ピークを超える。既に超えているかもしれません。低年齢化で、３歳児から入れようとしていて 2 歳まで育児休暇を取得されていた方が 1 歳で、という方向に変わってきていたり、子育ての休暇を取りなさいという国の方針もありますが、できるだけ早く保育所やこども園に預けたい、という方が増えています。幼稚園に通わせたい親が減ってきているのはどうしようもない流れです。今日結論が出

るような話では無いですし、おっしゃっていただいた、委員さんの意見は我々の頭に残ります。そういう意味で、不安材料や懸念材料を出していただくことは、今ここで結論が出ませんがこれから方針を決めていくうえで大切ですので、直ぐに答えられないので心配されるかと思いますが、その想いというのは、こちらが大丈夫ですと言い切れない不安があるのと同じです。

何らかの形で市の保育体制を今の状況に合わせて作り変えていくという取り組みはしていく必要があります。

［髙屋教育委員］

僕の偏見かもしれませんが、民間は利益を追及することが当たり前の話なので、子どもの数が減ってきて採算が取れない場合、撤退する可能性を視野に入れておかないといけないです。そういう状況下で、2園もいるのか、もし撤退した時に南丹市の教育、保育はどうするのか、ということをすごく心配しますので、公立の認定こども園は必ず残しておいてほしいです。以上です。

［西村市長］

今の南丹のぞみ園は、もちろん赤字ではないです。細かい制度のことは分かりませんが、国からの助成はかなり手厚いです。南丹のぞみ園に対する支援の現状はどのような具合でしょうか。

［説明員］

民間への運営は国の法定価格というか、利用料については定められているのでそれに基づいて市からお支払いさせていただいています。民間園として、様々な特徴を持って取り組んでいただいている中では、延長保育や一時預かりや様々な事業を取り入れられていますので、それにまた国の補助金がついてまわります。民間の中で特色を持った事業の取り組みは国の補助、また市の補助も出しています。その他に、市独自の運営補助としては、特に0歳児の受け入れに対して、通常は0歳児は誕生日が来ないと受け入れが無いのですが、順次受け入れていくことに対して児童数が4月から3月の間に徐々に0歳児が増えていくわけですが、それに対して3対1の割合で職員数が増えていくことにはなりますが、初めの4月の段階から1年間における0歳児の運営を見越した職員配置ができるように市の方で一定3年間については、段階的ではありますが別に補助、職員体制ができるような補助をしています。市としても誘致した民間園ですので運営がしっかりしていただけるようなことをさせていただいている状況です。

［西村市長］
施設は作ったが、子どもが集まらないとなると施設の返済計画ということになりますし、場合によっては福祉法人とはいえ、借り入れができるとしても返さなければならない。その見通しが立たないようになると、潰れるのではないか、という不安がついて回るのは事実ですね。

［説明員］
そうですね。南丹市としては、園児の利用申し込みに対して第 1、第 2、第 3 と希望を聞いていくわけですが、振り分けは市の方でする部分もありますので、市長がおっしゃるように公立園の規模を大きくしていくのか、と合わせて利用調整という言い方をしますが、民間を利用していただく調整をさせていただくことも必要かな、と思います。

［西村市長］
今のは、例えば聖家族幼稚園であれば、希望者なので申し込みがなければ誰も来ない。保育所の場合は、申し込んでいただいて市が振り分けをしますので一定数は民間に振り分けられます。極端に園児がいないということにはなりません。その調整面が公立のこども園になるのか、その役割も果たしていくということになります。
公立の園で支援の必要な児童を預かるだけではない、調整役の機能として考えられるかなと思います。それから、民間の保育所の建設費には国からいくらの補助金が何割出ましたか。それと、福祉法人ですので、福祉医療機構から低利の融資を受けられます。大体それを活用されて、返済期間も長いので普通に運営していたら無理なく返せる。老人ホームを建てる時も従来は同じスタイルでした。

［髙屋教育委員］
この資料 7 の園部地域再編イメージについて、市長の頭の中で公募民間園の開園予定はいつ頃を考えておられるのか。それから、園部幼稚園やすこやか学園、園部保育所のこども園化はいつ頃をイメージされているのか、その辺りを教えてください。令和 7 年頃なのか 8 年頃なのか。

［西村市長］
今のペースでいくと、受け入れていただける場所の確保と地域の理解がないと公募もできないので、とりあえず今それをしています。公募をしてから、3 年はかかると思っていますので、令和 5 年中に募集をかけて令和 8 年ぐらいになるのではないかと思っています。定員について 100 名というのはこちらで勝手に書いていて、それを目安にと思っていますが、それぞれの手を挙げていただく法人がどのような経営方針かによって、変わってきますので、もう少し少なくなる可能性もあります。

それから、園部幼稚園、すこやか学園、園部保育所については、一括りで書いていますが、おそらく令和８年に向けて調整をしながら、園部幼稚園はこども園化の方向ですが、その辺りで切り替わっていく。

城南保育所についても、子どもの受け入れを民間がどのくらいの体制になるかによって、募集の縮小が進んで、園部、城南が統合されるような受け皿ができるかもしれません。今、地域改善の同和対策施策などで、大型隣保館が城南と木崎にあり、同和保育所としての城南保育所、園部保育所もその近辺にあります。十分に議論をしながら、地元の理解を得ながら最終的にはどうするのか。もちろん、幼稚園・保育所の在り方のプロジェクトチームで、現在の状況を一番知っていただいていて、保護者の傾向も押さえながら、将来のイメージをつくっていると思います。単なる机上ではなく、日日の保育の実践を通して検討いただいてきたと思っています。元の意見も含めて、園部保育所、城南保育所についても地元と突っ込んだ話もしています。将来的に、園部は民間２園と、公立１園体制に持っていきたいという考え方です。仮にそうでなければ、園部も城南も建て替えをしないといけないです。園部保育所は保育室が足りないので、建物と建物の間に屋根を無理やり設けて保育空間を確保している。城南も、継ぎ接ぎできていますので、環境としては悪いです。一から建て直すとなると、とてもじゃないが、市で負担できる力は無いので保育環境の充実を民間の力を借りて行っていく。それから、園部幼稚園のこども園化については、給食体制についてはどのようにするかという課題がありますが、それも検討しながら新たなスタイルに切り替える方針をつくっていきたいと思います。

色々とご心配いただいた点は、これでドスンと心に落ちていますので、十分慎重に検討しながら進んでいきたいと思います。一旦方向づけすると、絶対にそれで行くのかというとやはり、その時々の情勢を見ながらと思っています。次の教育委員会の中でも議論いただいたらと思います。この総合教育会議の中でももちろん、議論いただければ、と思います。引き続いて、不安なことはこちらに出していただければと思います。

今、こういう方向で考えているという市立幼稚園、保育所の今後について情報提供や議論をいただいて、煮え切らないままですが、一旦終了させていただきます。

（２）教育課題について

［西村市長］

次に、教育の課題について、今の南丹市の教育の課題や現状について、その都度皆様のご意見も聞かせていただいていますので、今のテーマ以外でよろしくお願いします。

今年から体制も変わって、新しい運営の方針を何度も聞いておられるかと思いますが、最近教育長と話をさせていただいているのが、例えば幼児教育であれば、幼稚園と保育所は縦割りです。今までは、厚労省と文科省。今度、こども家庭庁になっても、文科省

と国は内閣府と厚労省を引っ付け、一元化する、と言っていますが今のところ一元化されていないなと思います。

そんな中で、こども家庭庁は母子保健、0歳児からの保健事業等も含めて地元のエリアに持ってくる。非常に幅広く取り組んでいかないといけない。南丹市も0歳児から、文科省、厚労省、内閣府関係なくもっと一元化して情報交換や子育ての協力体制を作っていく必要があるという話をしていました。

［國府教育長］

子ども達が義務教育を終えた時に夢と希望を持って進路実現を、と色々な場所で言わせていただいた時に、お一人おひとりのお子さんのカルテ化を考えています。学校1年生から中学校3年生まで成績も、あるいは、子どもは様々な場面で悩みますので生徒指導、環境も含めて1つのカルテ化をしていこうと思い、今取り組んでいます。先日の校園長会議で、小学校の校長先生方に残っていただいてそういう取り組みをしますよ、と説明しました。どうしても中学校はクラスも多く、教科担任制なので情報を1つデータ化して残すという文化がありますが、小学校は担任が持ち上がっていくので、1年ずつきっちり記録を残していくことが大切だと思い、カルテ化を情報共有するものにしていこうと思っています。その中で、小学校1年生から中学校3年生までも、そう考えていますが色々な生徒指導面、子ども達の思春期の悩みの根本にあるのは、就学前ではないのかな、と思います。そういう意味で就学前、先程議論があったように、教育委員会としては、幼稚園の園長先生に入っていただいているので、まずそこを基準にして官、民という問題がありますが、そこに1つ軸を設けて民間にも広げ、南丹市のお子さんについては、1つのカルテ化でずっと情報がきっちり伝わっていくことができないか、と取り組みをしています。あくまでも、今はソフトも個人で作ったものになりますが、公共になると少しお金もかかるわけですが、ゼロトラスト化も含め、企業もスムーズにいけるような、今は1社考えていますが、そういうところに移行できないか、等考えているところです。今は、就学前から義務教育が終わるまでの全てのお子さんの情報の共有化を進めたいと考えています。

［西村市長］

なぜ、このような話になったかというと、例えばどこで誰がという話ではありませんが、自殺願望のある子どもがどこで発達上躓いたのかというと、幼児期まで遡らないと分からないのです。逆に言うと、幼児の時の発達あるいは家庭環境の躓きがずっと尾を引いてきたのであれば、それを教える立場の教育を行っている者がそのことを知り、理解し、それを乗り越えていく手立てを一緒に考えていかないと、ずっと傷を負ったまま大人になってしまう。もしかしたら大人になって自殺をしてしまう、犯罪を犯してしまう。その辺りを早い段階から、文科省も厚労省も関係なく情報を共有するとともに、情

報のセキュリティ等も念頭に置いて、情報の共有化、活用を1人の子どもにずっと付いていく南丹市の子育て体制であってほしい。できれば、全国に先駆けてしたいと思っています。できるかどうかは分かりませんが。今、府の補助金をとりにいっています。

［國府教育長］

今、市長のお話があったように、中学生に多いのですが、中学2年生が1つのハードルで、そこで一時的にバランスが崩れて小学校や幼児の時のフィードバックをするとスイッチが入ってしまう。やはり、中学校から小学校、あるいは就学前、と情報が共有化されていくと未然防止に繋がることは間違いない。今、不登校が非常に大きな問題になっていますが、その情報共有がどこかで止まったりしてしまうと、例えば吃音のあるお子さんが皆の前で話をすることはすごくプレッシャーになるのに、そのようなことが上手く引き継がれていないと、思わず学級での自己紹介をさせられたことにより不登校になってしまう、ということが当然起こります。教員が多忙な中でというのがあれば、できればソフトを活用し、ICTは南丹市の強味ですので、そういうことも使ってカルテ化をする。起こるべきしてと言いますか、そういうことをできるだけ避けたいとの想いで進めています。今、京都府が子どもの教育のための交付金を3億円を積んでプレゼンをしていますが、半分は市にもご負担いただくことになるのですが、そのことも視点に入れて4本柱で4つの提案をし、まだ結果は返ってきていませんが、そういう面でケアができないかと先々に校長先生や学校には提案をし、事業が採択されれば直ぐに動ける体制にできないかと思っています。

［木戸教育委員］

義務教育の間はデータがありますか。

［國府教育長］

当然、中高で必ずデータがまとめてあります。校長が必ず見ます。特別支援的な課題ももちろん。小学校、中学校で通常級にいる子の10%、35人学級で3.5人は特別支援的な課題があります。私や皆さんにもありますが、特別的な支援が大きく必要。そういう意味で、中学校から高校を出るときにデータがあれば幼児から中学校の間にどのような指導をしたのか分かる。高校との連携もうまく出来る。

［西村市長］

そうですね。LDやアスペルガーとかの精神的な課題や発達上の課題、昔からあったと思いますが、数字的に上がって増えています。皆さんが1番心配されている幼児期のネグレクトや虐待というものが必ず子どもの心を傷つけたまま大きくなっていくので、その辺りを解決していかないと、皆が皆健全に元気よく育ちません。

［城戸教育委員］
それで言いますと、保育対象者となる0歳児から3歳児未満の間に保育された方の増加の数と、将来的に不登校となられる方の相関は有意に高い関係にあるという情報があります。

［國府教育長］
その辺りですね。把握し繋いだ中で教育できるのと、把握しないで教育してしまうのとでは、違うので。南丹市ではそれを防げるかな、と思います。

［城戸教育委員］
人権の講座でお聞きしたのですが、アナウンサーの藪本さん。過去に性被害を受けたりすると、自分の中で気持ちが処理できずに定期的に自分の命を絶とうという衝動にかられると。

［西村市長］
自分の存在を自分で否定してしまう。

［城戸教育委員］
幼い場合だと、自覚がない中なのでカウンセリングなどお話をプロに聞いていただいて、気持ちを上手に持って行っていただくことが大事だと思います。

［國府教育長］
カウンセラーは、各校配置していますので、そういう意味でも繋げやすくなりますし、そういう情報は必要かなと思います。被害の方もそうですし、加害の方も指導が不十分になると、医療面に繋いでおかないと大人になって残念ながらニュースに出てしまうような事態も起こすので未然に防止ができないかな、と思います。

［西村市長］
来年4月からの南丹市の体制もどうするのか。こども家庭庁ができ、各市町村で子ども家庭センターを設ける。今言った、子どものカルテ化の問題をどう処理していくのか。そのための組織はどうあるべきか、議論をしている最中です。教育委員の皆様も毎月寄られていますので、どこかでお話できる機会あれば、教育委員会の中で一緒に議論に参加していただければと思います。
予定していた時間を超えているのですが、せっかくお越しいただいていますので何か話していただければ。

日吉では、梅若さんの取り組みが進んでいて9月24日も公演を日吉の皆様の力と南丹市全体の皆様の力のおかげで、学校教育にも影響を与え協力していこうということで。開催されます。

［渕上教育委員］

先程の幼稚園や保育所のこともそうですが、南丹市としては子育て世代に手厚くしていける部分があれば、育った子どもたちが帰ってくるのではないかと思います。今実際にいる子育て世代の方、0歳から小学校入学までの方が何を求めておられるのか。公立、私立ともに良い面がありますので、現場の子育て世代の方の意見を聞いてそれを参考に進めていただけるとすごくありがたいと思います。日吉はJRの本数が減り、高校生など地元から通学される方は、合う時間が無いため早く行き、帰りも2本ほど減り、不便を感じておられます。不便さが増えると、他府県へ出ていかれることもありますので、子育てに優しい南丹市であるように、現場の話を聞いて対応していただきたいです。その後、JRは何か進展ありましたか。

［西村市長］

昨日、このエリア亀岡、南丹、京丹波の選出の府会議員と京都4区の国会議員と、3つの町の市長町長が揃ってJRに要望に行ってきました。その結果、私として少し手応えを感じましたがJRとしても、特に通学の関係は真剣に考えている気がしました。秋のダイヤ改正に向けてできるところから復元を、一気にではなくとも課題の大きい教育に関わるところからダイヤを戻してほしいと、口を揃えて強く言ってきました。JRに対しては統一行動が3回目です。見通しが立たないと、またそれをする必要があります。なかなかJRも簡単に「はい」とは言いません。手応えを感じていても、相手側が口に出せないのか。コロナを契機にダイヤが似たようなところもありますので、嵯峨野線、山陰線を戻すと他所から文句が出るという思いも強かったです。殿田のことは強く言ってきました。

［渕上教育委員］

殿田中学校はJRの減便によって部活が短縮され、思うようにできていませんので、強く訴えていただきたいです。

［前田教育委員］

美山のことで言いますと、面積、距離が非常に遠いというのもあるので、時間のロスもあり、交通機関の配置も大変だと思います。先程のこども園の分室や、子育ての関係のことで言うと、時間の配慮もあり車の配置もあり、美山は特に時間や距離的な面で配慮がまだ必要なのかなと思います。できる限り、中学校や小学校も含めて子ども達が時

間や距離のロスが無いようにお願いしたいと思います。

［西村市長］
　それを念頭に置きながら、小学校では他では出していない車を知井方面では出しています。

［前田教育委員］
　出してもらっていない、とは言っていないです。これからもよろしくお願いします、という意味で。

［西村市長］
　しっかりやってくれ、という意味ですね。
　時間いっぱいになりましたが、最後に何かよろしいですか。

＜３＞その他
　なし

＜４＞閉会
◇教育長あいさつ
　今日はお忙しいところありがとうございました。今日のテーマは、南丹市立の幼稚園の今後についてということで、貴重な意見をいただきました。総合教育会議にこの立場で初めて出席しましたが、皆さんが南丹市の就学前教育についてどうすべきなのかを、同じ立場で考える会議になって非常に良かったです。今後さらに深めていく必要があると思いました。特に持続可能なというところで、財源や様々なことが関わってきますので民間云々も出てきます。私の立場も含めてですが、その中であっても公立は公立でないとダメ、そういう教育はやはり今後大切だと市長からもお話がありました。幼稚園の園長も入って、良い就学前教育、義務教育を実現して南丹市では学びたい教育があるな、と言われる教育を推進できればと思っています。カルテ化も含めて様々な諸課題があります。やはり、南丹市は広い。これに対してどう対応していくのかも考える必要がある時に、前田教育委員の意見がありました。美山の小学校の校長先生と話していると、美山の子たちは帰宅してから自転車に乗って、歩いて友達と遊ぼうとなかなか言えない。ならば、学校に残ってグラウンドで遊ぶ時間を確保しようと。園部や八木では無い発想だと思いました。お互いに知恵を出し合いながら諸課題を１つになって取り組めるような会ができればと願っています。
　そういった意味で貴重な意見をいただき、感謝の意を込めましてあいさつとさせてい

ただきます。本当にありがとうございました。

［総合教育会議事務局］

長時間に渡り、様々なご意見をいただきありがとうございました。また、この会議の在り方については今後、教育委員会の事務局と調整をしながら進めて参りたいと思います。よろしくお願いいたします。以上をもちまして、令和５年度第１回南丹市総合教育会議を終了します。